

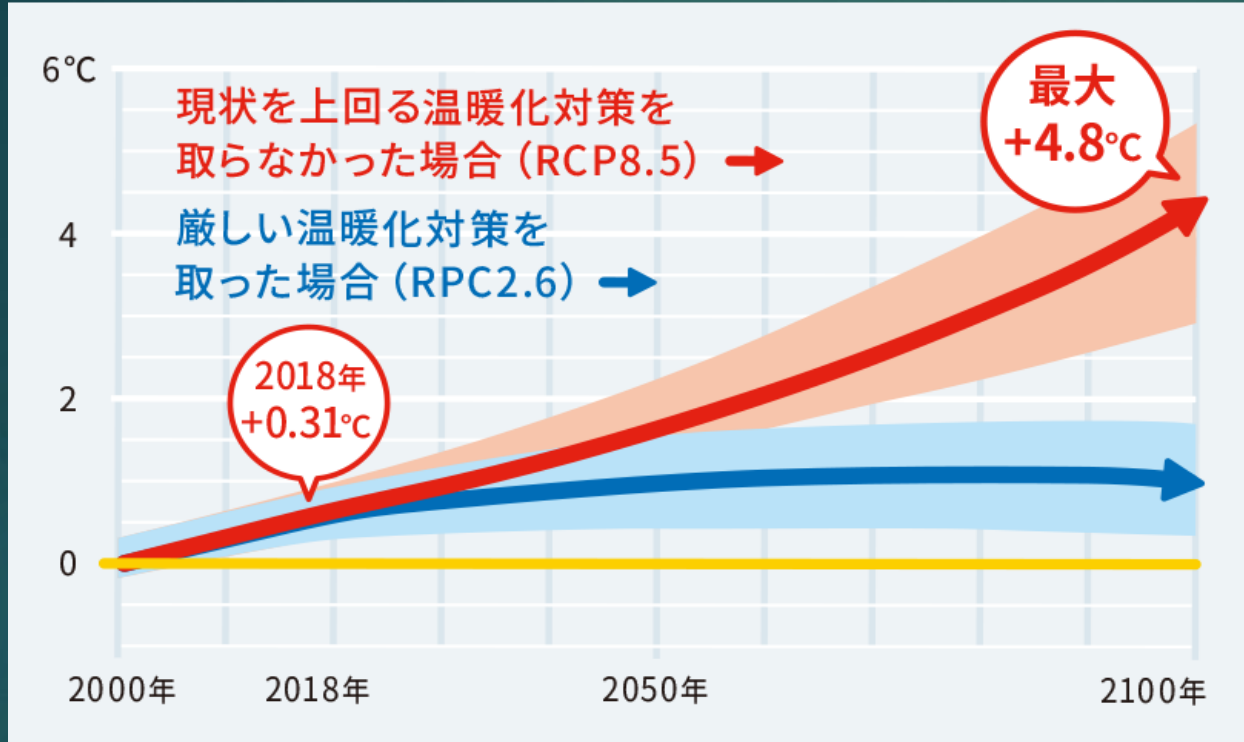
SDGs 13 全ての国々において 気候変動に具体的な対策を

現状

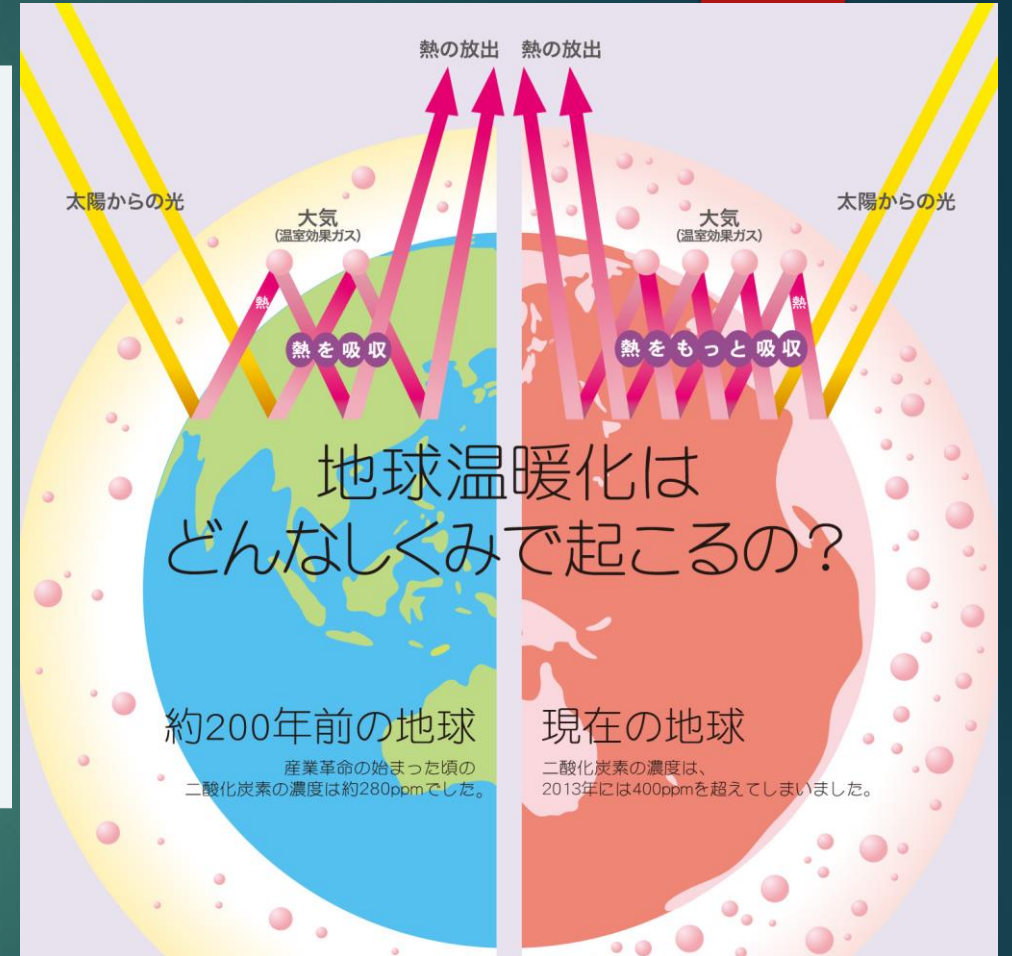
- ・ UNISDRが2018年にまとめた報告書によると1998年からの20年間で自然災害より発生した経済損失額は2兆9080億に達し前の20年間の約20倍に増加している。
- ・ 日本でも豪雨や台風などの自然災害が少なくありませんが、2013年11月にフィリピンを襲った台風30号（ハイエン）は上陸した台風の中では史上最大勢力ともいわれ、死者6200人超という大きな被害をもたらした。また、少雨と乾燥、熱波による自然災害としてオーストラリアの森林火災が挙げられる。


・オーストラリアでは、2019年の平均気温が過去最高を更新、平均降水量は過去最少となり火災が発生しやすい状況だった。そんな中、2019年7月に起こった森林火災では28名の死亡者を出し3000棟の民家が全焼、さらには最大で10億匹の野生動物が影響を受けたとされ、オーストラリア史上最大規模の火災となった。

問題点



2081~2100年の平均



- 
- ▶ 世界の平均気温は1880年国連気候変動に関するIPCC（政府間パネル）の報告によると、世界の平均気温は1880年から2012年までに0.85°C上昇しています。
 - ▶ 0.85°Cと聞くと、どれだけ影響があるのかわかりにくいかもしれませんが、専門家からは、現在進行中の地球温暖化によって、生態系の一部にはすでに大きな被害が出ていると発表されています。たとえば温水域のサンゴ礁は、1.5°Cで今よりさらに70~90%、2°Cで99%以上が失われると予想されています。このように世界の平均気温が1~2°C上がることは、地球にとって大変深刻な問題なのです。

課題・解決点

- ▶ 温室効果ガスを削減するための世界の取り組みとして代表的なものが、2015年12月に採択されたパリ協定です。パリ協定では「世界の平均気温の上昇を、産業革命前と比べて少なくとも 2°C 未満に抑える」という世界共通の目標となる数値が設定され、そのために、各国ごとに二酸化炭素排出量の枠が決められました。
- ▶ この取り決めにもとづいて、各国の政府が自国での二酸化炭素排出量の削減目標を定め、規制や政策を整備して地球温暖化をくい止めるための取り組みを続けています。日本では温室効果ガスの排出量を2013年に比べて、中期的には2030年までに26%減らすこと、長期的には2050年までに80%減らすことが目標として決められています。
- ▶ こうした国際社会や各国の政府の動きを受けて、世界の企業の間でも、二酸化炭素を排出しない再生可能エネルギーの開発に力を入れたり、従来より少ないエネルギーで使うことができる省エネルギータイプの商品を売り出したり、製造過程や流通の面でも省エネルギーを心がけたりと、温室効果ガスを削減するための取り組みが活発に行われています。

10代からの提言

私たちは地球温暖化の大きな原因となっている二酸化炭素の排出量を減らすことが大切だと思います。そのためには、一人ひとりが二酸化炭素の排出量をおさえようという意識を持ち、日常的な行動を変えることが大切だと思います。

火力発電じゃなくて地熱発電や、水力発電を主力にすることが大切だと思います。

考察・感想

- ▶ 今までそこまで興味無かったけど、今回sdgs気候変動に具体的な対策について調べてみて現在の地球が温暖化によって、
- ▶ 今生きている自分たちがどのように生きていくかによって未来が変わって行く時思いました。